

解毒

「蘇せいシリーズ」の基本となるもの。林進徳先生の傑作商品！

蘇せいシリーズ ○ (解毒系)

蘇せい源



中医 118 代 林進徳先生

中国で 3000 年以上の歴史を継承する「林家」は、第 32 代の林偉氏が秦の始皇帝の侍医を務めたという漢方医の家系で、200 年前に台湾に移住しました。昭和 3 年(1928 年)台湾で誕生した林進徳先生は、日本の統治下にあった台湾で日本の教育を受け、父・林茂蓮氏から 118 代目を継承後、世界で初めて「漢方薬の制がん剤」を開発し、日本に紹介しました。

「子供の時に受けた日本の教育があったお蔭で、今の自分がある」が口癖の林進徳先生が日本への恩返しのためで開発したのが「蘇せい源」でした。平成 8 年(1996 年)のことです。

林先生が初来日したのは、昭和 52 年(1977 年)です。当時の日本は、昭和 39 年(1964 年)の東京オリンピックをきっかけに始まった高度経済成長のお蔭で、生活が豊かになった反面、大気汚染、水質汚染、食品添加物の規制緩和などにより、「空気を吸っても毒、水を飲んでも毒、食べても毒」という環境下で生活しなければならなくなり、これまでにはなかった病気が発生し、同時にがん患者が急速に増大し始めた頃です。

「今の日本人は、解毒に追われる肝臓に過重な負担を掛けている。このままでは、皆弱々しい体になる」との心配から、「蘇せい源」の開発に掛った林先生は、林家に代々伝わる古文書「十八東南」の読み返しや、自分の体験を駆使して長い年月をかけて“より良い”製品の開発に携わってくださったのです。

誕生した「蘇せい源」は、まず、林先生が来日後に親交を深めた日本の医師たちに取り上げられ、短期間で多くの体験例が集録されました。林先生が予想した通りの体験例は、マスコミや著書に紹介され、多くのご愛用者の誕生につながりました。

著書に紹介された林先生の言葉、「漢方の健康の基本は、体に良いものを取り入れる前に、まず体の中をキレイにすること」という考えが、そのまま「蘇せい源」の期待される効能となっています。初めて飲んだ方が「便秘ではありませんが、飲み始めたら排便が多くなったので驚いています」の言葉は、漢方の健康の基本が「蘇せい源」の最初の体験に結びついていることがわかります。